

外国語分科会 エデュスクラムの活用における成果と課題

	成果	課題
課題設定	<p>小学校国語科で学習した「スーホの白い馬」が英語で書かれたものを、一旦日本語に訳し、その後英文の中から必要な部分を探して抜き出したり要約したりして英文を完成させる「リテリング」を行った。個で思考する場面が多くなりがちな教科であるが、協働の必要性のある活動とすることができた。</p>	<p>リテリングという活動についての理解が不十分であるため、苦勞して新たな英文を作成して、活動に時間がかかっている様子が見られた。</p> <p>生徒が活動そのものに慣れることや、英文を新たに作成したときのチェックの仕方を指導することなどが必要である。</p>
フリップやアイテム完成の定義	<p>「(スーホの白い馬の) お話を知らない人にも分かるようにする」という完成の定義が共有され、グループではそれを意識して話し合うことができた。</p> <p>また、グループで活動するために必要なブックやフリップが一つのファイルに集約されていることで、タブレット一つで作業することができ、学習の見通しをもちやすくすることができた。</p>	<p>英文の要約では、文法や英単語などの既習事項を踏まえた活動とすることを前提とし、まだ学習していない英単語を使う必要があれば、それを「New words」として洗い出す作業をアイテム出しとした。しかし、New wordsに既習の英単語を挙げるなど、既習事項を踏まえていない生徒がいたので、そのための手立てが必要だった。</p>
ブック	<p>教科書を基本のブックとし、タブレット上にもブックを作成して、生徒が自律的、協働的に学習を進められるようにした。</p> <p>タブレット上のブックは、個人やグループでの活動が行き詰まったときの手掛かりとするためのものであり、教科書は、発表原稿を完成させるために、最大限活用すべき英文が示されているものという位置付けとした。</p>	<p>タブレット上のブックを活用せず、独自の方法で文章を作成しているグループがあった。また、日本語にしたものを基に役割分担することで、教科書の英文から意識が離れてしまい、教科書を有効活用できていないグループがあった。</p> <p>タブレット上のブックや教科書を活用し、効率よく活動を進めるための助言や指導の仕方に工夫の余地がある。</p>
協働的な関わりを促す手だて	<p>グループに合った進め方を見つけて、活動を進めることができた。各グループともに同じゴールを目指しているが、完全に分業して各自が責任をもって進めるグループ、リーダーがリーダーシップを発揮するグループなどの多様性が見られた。</p>	<p>日本語に訳したものを役割分担して英文を作成し、それを合わせて発表原稿とする活動は、生徒同士の関わりが見えにくい「分業の寄せ集め」になる可能性がある。それぞれの関わりを意識して活動させることが必要である。</p>
授業実践で明らかになったこと	<p>○時間数が必要な活動であるため、この活動を取り入れることで、予定時間数で当該単元を終えることが難しい部分がある。</p>	